

がいこくじん

外国人のためのくらしと文化の**情報誌**

ぶんか

じょうほうし

KOKOKA

Life In Kyoto

ふゆごう
2021 冬号

もくじ

わたし す きょうと
01 私の好きな京都

きょうと
02 京都でハイキング

ゆき ふ
03 しんしんと雪が降る

04 kokokaオープンデーでの「Life in Kyoto」

きょうと
05 もっともっと京都を
知りたくて(2)

にほんし
06 日本史のひとこま

07 kokoPlaza Letter

しちふくじん たからぶね
08 七福神と宝船

30 YEARS

LIFE IN KYOTO

がいこくじん

外国人のための情報誌「Life In Kyoto」でPRしませんか？

じょうほうし

こうこく ぼしゅうちゅう

広告募集中!! 1 枠 10,000 円～

わく

えん

☎ 075-752-3511 ☒ office@kcif.or.jp

きょうと せい かつ 京都での生活

ブライアン・サントソ



わたし なまえ 私の名前はブライアン・サントソ (Bryan Santoso) です。インドネシアのジャカルタ出身です。立命館大学りつめい かん だいがくの学生で、京都きょうとに住んでいます。趣味はバドミントンです。

にほん りょこう 日本に旅行したい、留学りゅうがくしたいと思っているインドネシア人じんは、たくさんいます。私も以前わたし いぜん、日本にほんに2回ほど旅行りょこうしたことがありました。それで、日本にほんで勉強べんきょうしたいと思って、留学りゅうがくすることになりました。

きょうと す 京都きょうとに住んでみて、京都きょうとは素晴らしい都市としだと思いました。なぜなら、静かなところしずですから、勉強べんきょうに

しゅうちゅう 集中しゅうちゅうすることができます。きれいな風景ふうけいを撮影さつえいすることができ、鴨川かもがわを散策さんさくすることもできます。桜さくらと紅葉こうようの季節きせつになると、とりわけ、いい写真しゃしんが撮れるようになります。

にほん す 日本にほんに住んでいるインドネシア人じんは、たくさんいます。私は日本わたし にほんに来てから、たくさんのインドネシア人じんの友達ともだちができました。そして、友達ともだちといろいろな場所ばしょに行きました。たとえば、平野神社ひらのじんじや、金閣寺きんかくじ、伏見稲荷ふしみいなりなどです。最近さいきんでは、天橋立あまのはしだてに行きました。あそこのケーブルカーとチェアリフトの かまつこうえんに乗って傘松公園のぼに登って、きれいな海うみを見ました。本当に楽しかったです。

また、京都きょうとにはたくさんのインドネシアレストランがありますので、コロナの影響えいさうで、ひんぱんに故郷ふるさとにもどられなくなっても、インドネシアの料理りょうりを楽しむことができます。私がよく行くレストランは四条河原町わたし いの「熱帯食堂しじょうがわらまち」です。窓から鴨川ねったいしょくどうを見ることができ、とてもいい環境かんきょうです。値段ねだんが高くなく、味あじも本格的ほんかくてきでおすす勧めすすめです。

きょうと せい かつ ほんとう 日本にほんの生活せい かつは本当にいいと思います。日本にほんを離れても、いつかまた京都きょうとに戻もどれることを期待きたいしています。



02 京都でハイキング

まちの よういち
町野 陽一

わやく：フッサム ワファ

京都は山に囲まれた地域で気軽にハイキングが楽しめます。その殆どが日帰りで行くことができます。山の登り道は歴史的かつ伝統的な雰囲気にあります。もちろん、林業に関する発見もあります。

京都の歴史はあまりにも深いゆえに殆どの山道が発展しているところもあればなくなったものもあります。時には進む道が多すぎて混乱することがあります。幸いほとんどの道には道しるべがついています。それをたどっていけば目的地にたどり着きます。その中でも有名な「京都一周トレイル」です。

時には「熊危険」という看板を見かけることがあります。そうなんです、ツキノワグマはそのような山に住んでいます。しかしほとんど見かけません、なぜならあなたたちがクマを怖がっているよりもクマたちのほうがあなたたちを怖がっているからです。運悪く（又は運良く）見かけることがありましたら、縄張りを侵害しているとクマたちに思われるので、すぐに離れてください。ニホンザルやニホンジカも見かけることあるのでクマ同様に近づかないで、又、えさを与えないでください。有名な目的地の中でも大文字山、比叡山、愛宕山は大変人気です。ハイキングに行くときは、準備万端な状態で挑んでください。ハイキングガイドは英語または日本語で本屋・図書館かあるいはインターネットで見つかります。熊よけの鈴もマウンテンバイクと熊よけに役立つと思います。



やまのおおかみ わす じんじや ひえいざん
山之大神、忘れられた神社、比叡山

03 しんしんと雪が降る

かわさき まさし
川崎 雅司

皆さんは「しんしんと雪が降る」という表現を見たことありますか。

また「ワンワンと犬が吠える」はどうでしょう。日本語では、動物の鳴く声などをフランス語の Onomatopée の発音から借りて、オノマトペと呼びます。

オノマトペには、犬の鳴いた音を文字に書いた「ワンワン」などの言葉と「しんしん」などの状態や感情を表現した言葉があります。日本人はこの状態や感情を表現した言葉をたくさん使います。会話やテレビ、小説でも使われています。しかし、辞書に無い言葉も多いです。

同じ日本人どうしても、よく使うオノマトペと使わないオノマトペがあります。京都では雪は降りませんが、あまり積りません。雪がたくさん降る秋田県の人「雪がもっそもそ降る」と言っても、京都の人には解りにくいのです。

「しんしん」という表現は、日本のどこでも使います。日本人の親しい人がいれば「しんしん」の意味を尋ねてみてください。色々な答えをくれるでしょう。短い言葉ですが、聞こえない音を表現する為に様々な説明が必要です。こんな交流も良いと思いませんか。

04 kokoka オープンデイでの「Life in Kyoto」

すずき ひでとし
鈴木 秀利



11月3日、kokoka では毎年恒例のオープンデイが行われ、私たち「Life in Kyoto」(LIK)のグループは、去年と同じく紙芝居の上演とパネル展示やビデオによるLIKの紹介を行いました。

紙芝居は、日本語、英語、中国語で上演したほか、ZOOMを使ってオンラインでの上演も行いました。また、パネル展示では約30年にわたる過去のLIKの中から数十号分の表紙が展示され、ビデオではLIKを

作る過程や編集をしているボランティアの声などを紹介しました。

当日、会場には約300人が来てくれて、一時は会場が満席になるぐらいでした。紙芝居では「アンパンマン」なども上演され、見ていた子どもたちも大変楽しそうで、イベントは大盛況に終わりました。



05 もっともっと京都を知りたくて(2)

～美術館のある風景：河井寛次郎記念館～

みずの ひろし
水野 裕司

市バスに乗って、五条坂バス停で降りることがあるとすれば、おそらくあなたは東大路道を渡り、清水寺の方へと向かうでしょう。しかし、焼き物に興味があれば、五条通を渡って、河井寛次郎記念館へも足を伸ばしてみてもどうでしょうか。

京焼は、かつては登り窯で焼かれていました。20世紀前半には、五条坂界隈に約20基の登り窯が稼働していたと言われています。焼成が始まると、登り窯からもうもうと煙があがり、窯元への人の出入りも活発になりました。そういうわけで、当時この地域を訪れた人は、そこが焼き物の町であることを今日以上に実感できたであろうと思われます。

河井寛次郎は、島根県出身の陶芸家です。東京高等工業学校で陶芸を学んだ後、彼はしばらく清水六兵衛の窯元で釉薬の顧問を務めていましたが、その間に清水家から登り窯を購入することができ、それを機に京都に定住することになりました。後に家屋が台風の被害にあったため、自ら設計して家を建て替えました。それが現在ほぼそのまま河井寛次郎記念館として公開されています。

玄関を入ると右手に板の間があり、その一角に囲炉裏が設けられています。その横手には勝手口があって、そこから庭伝いに陶房、さらにその奥の登り窯へと回ることができます。窯焚きには窯焚き専門の職人など様々な人が関わっていましたが、登り窯を通じて形成された協力関係がいかに大切にされていたかがこのような家の造りから伝わってきます。

玄関口は案内板の横にある黒い格子戸です。そこをくぐれば、五条坂のもう一つの魅力がきっと見つかるはずです。



大徳寺は京都市北区にある禅寺で、16世紀の日本史と、深いつながりをもっています。そのころの日本では各地の勢力が、全国支配をめざして激しいいさを、くりひろげていました。その中を勝ちぬいて京都にはいり、中央の権力をにぎったのが、信長（織田信長）です。しかし、彼はその十数年後に、家来によって、あっけなく殺されました。信長の部下の一人であった秀吉（豊臣秀吉）が、その家来を負かし、後継者となりました。大徳寺で、盛大な葬儀がおこなわれました。

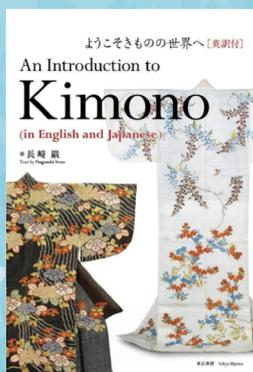
信長の遺体はなぜか発見されませんでしたから、かわりになるものが必要でした。信長を一度見たことがある仏師が、信長の木像を彫ることになりました。できあがったものを見て、秀吉は、「うん」とうなずいたそうです。像は2体つくられ、一つは火葬のために使われ、もう一つは大徳寺にのこされました。

信長には肖像画もあります。革新的にしてあげたかいたわりには、やさしい顔をしています。でも、黒みがかかった等身大の彼の像は、眉のあいだのきびしい線で、栄光の座を一夜で失った男の無念を、今に伝えているようです。

信長の木像は、大徳寺の中の総見院で、春と秋に特別公開されています。



07 kokoPlaza Letter



『ようこそきもの世界へ [英訳付]』

ながさき いわお ちよ かぶしきがいしゃとうきょうびじゅつ
長崎 巖 (著)、株式会社東京美術、2020

日本の伝統衣装である「きもの」について、時代によって変わるデザインや色柄、素材などを、鮮やかなカラー写真とともに日本語と英語で紹介しています。「きもの」で表現されるのは季節の草花や風景、時には物語など、とても多様！お茶や能など、日本の様々な伝統文化の理解にも役立ちます。奥深い「きもの」の世界をのぞいてみませんか？

kokoPlaza にはこんな本もあります！

がいこくじん にほん せかい ほん
外国人が日本で生活するための本

にほんごがくしゅう ほうりつ にほんぶんか きょうとかんこう くに しんぶん
日本語学習、法律ビザ、日本文化、京都観光、いろいろな国の新聞

にほんじん がいこく し ほん
日本人が外国を知るための本

かいがいりょこうりゅうがく ロングステイ、ワーキングホリデー、ボランティア

[オープン] 9:30~17:00
げつようび げつまつさいしゅうびへいしつ
(月曜日 & 月末最終日閉室)

[TEL] 075-752-1187

[FAX] 075-752-3510

※貸し出しはしていません。

皆さんは七福神を知っていますか。恵比寿天、大黒天、毘沙門天、弁財天、福祿寿、寿老人、布袋尊の神々を七福神と呼び古くから親しまれています。そしてお正月の風習のひとつに、七福神巡りがあります。七福神巡りとは、七福神が祀られている社寺をお参りするのをいい、新春にこれらの社寺にお参りをすると、ご利益があるとされています。現在では各地で行われている七福神巡りですが、もともとは京都で行われていたものだそうです。



また、七福神といえば「宝船」をイメージする方も多いと思います。宝船とは七福神が乗っている宝物を積んだ船のことをいいます。昔から、お正月に宝船の絵を枕の下に入れて寝ると良い「初夢」を見る事が出来ると伝えられています。

初夢とは、一般的に元日から2日にかけて見る夢をいいます。そして初夢で縁起の良い夢を見たらその一年が良い年になるといわれています。



ちなみに、縁起の良い夢のベスト3は「一富士二鷹三茄子」といって、一番が富士山、二番目に鷹、三番目がなすびとされています。皆さんも、お正月は宝船の絵を枕の下に入れて、良い初夢を見てみませんか。2022年が、皆さんにとって素晴らしい一年となりますように。

Life In Kyoto

外国人のためのくらしと文化の情報誌

2021年冬号

(公財) 京都市国際交流協会

TEL : 075-752-3511

FAX : 075-752-3510

E-mail : office@kcif.or.jp

〒606-8536

京都市左京区粟田口鳥居町 2-1

地下鉄東西線 [T09] 蹴上駅より徒歩6分

開館時間 : 9:00 - 21:00 休館日 : 月曜日

(月曜日が祝日の場合、その翌日の平日)



オンラインでも読むことができます。
バックナンバーも公開中です。

<https://www.kcif.or.jp/web/jp/publications/#lifeinkyoto>

LIK 編集ボランティア

アシュリー クレイトン / イエナ パーク / 石原 詩恵奈

石原 啓子 / 生田 みのる / ウィニーラトゥルソン / カール ジャンスマ

金谷 千菜美 / 川寄 雅司 / 古園 美樹 / 小谷 仁美 / 佐藤 未奈

澤田 淳美 / ジミー (許 俊暉) / 周 暁春 / 鈴木 翔一郎

鈴木 秀利 / 近本 功司 / 西木 美恵 / 藤田 リサ / フッサム ワファ

古田 富好 / 町野 陽一 / 水野 裕司 / 村上 俊延 / 村山 真直

室岡 喜一郎 / 八木 俊幸 / 湯澤 公朗 / 林 秀鳳

